

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和 7 年度第 2 回相模原市立図書館協議会		
事務局 (担当課)		相模原市立図書館 電話：0 4 2－7 5 4－3 6 0 4 (直通)		
開催日時		令和 7 年 9 月 6 日 (土) 午前 1 0 時～1 1 時 4 0 分		
開催場所		相模原市立図書館 2 階 視聴覚室		
出席者	委 員	9 人 (別紙のとおり)		
	その他	なし		
	事務局	8 人 (図書館長、橋本図書館長、相模大野図書館総括副主幹他 6 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 委嘱式 2 議題 (1) 成果指標に係る評価方法の一部変更について (2) 令和 6 年度図書館事業評価について 3 その他		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 委嘱式

館長から委嘱状をお渡しし、佐藤（純）委員から一言ご挨拶をいただいた。

2 議題

成果指標に係る評価方法の一部変更について
事務局から資料 1 の 7 ページ目の説明を行った。

（大谷会長） 補足ですが、前の年度の実績値に基づき評価を行うので、今年度評価を行うのは令和 6 年度の事業評価です。今回ご提案いただく評価方法の一部変更は令和 7 年度の評価、つまり次年度に行う評価の方法について一部変更するものです。結論から言うと今年度は従来の方法を踏襲します。今年度 1 年間かけて次年度以降の方法の見直しをしましょうというご提案になっているかと思います。10 月の外部評価というのは令和 6 年度の資料を踏まえて行うものです。

事務局から資料 1 に基づき説明し、質疑応答を行った。

（大谷会長） 今日、就任された佐藤（純）委員がいらっしゃいますので、このところの外部評価の状況について説明させていただきます。図書館側の取組状況については内部評価も比較的评价が高い状況が続いており、複数の委員から取組はよくやっているとご発言をいただいています。取組そのものに関して外部評価としては決して低い評価はしていませんが、成果指標に対する達成状況が特にここで挙げられたものが低く、一昨年、昨年は結果として外部評価は定性的な評価として低い評価になっております。今年度第 1 回図書館協議会開催時に、この構造で評価するのはどうなのか、乖離した状態なので「達成していないので駄目だ」と、これが状況の改善としてもどうなのかと。もちろん、ハードルを下げすぎて「何も努力せずに達成する」というのは間違いだと思いますが、取り組んで努力して達成できたものを分かるようにして、それをきちんと見て評価したほうが建設的なのではないかという話があり、事務局に検討をお願いした結果、今回のような提案をいただいているという経過になります。

本日この場で結論を出すものではなく、今年度の協議会の中で結論を出すという形になると思います。例えば、今回提出された図書館側の基本的な考え方や方針について、確認したいことやご意見等があれ

ば自由に述べていただければと思います。

ご意見が無いようですので、事前に渥美委員から資料をいただいているので、渥美委員からご説明をお願いします。

(渥美委員) 図書館協議会で事業を外部の委員が評価する指標について試案を作成しましたのでご覧ください。全体の考え方としては、評価が量で測れるものと定性的にしか測れないものがあり、事務局からのご説明の中で、指標の重点取組ということで、なかなか数値で現れない評価というものがあると表現されていましたが、そのとおり大切だと思っております。細かな点数をつけることに力を注ぐことも大切ですが、一方で定性的な評価をきちんと行い、どこに向かっていくのか文章で書かれてあることが大切だと思いました。「1. 利用状況・成果指標」及び「2. 効率性指標」は数値に現れやすい部分だが、「3. 質的評価指標」以降は数値として表すことが難しく、「4. 社会的インパクト指標」のあたりはどのように評価するのが大切だと思います。それを踏まえた上で「5. 社会的展望・改善度」というふうに考えてみました。別の角度から考えると、「3. 質的評価指標」はどちらかということ図書館の内部の話であり、「4. 社会的インパクト指標」は図書館の外部、例えば学校や障害者、外国の方を含めた色々な方、社会的にニーズがどうなのかということを考えております。外部評価にあたりもちろん定量評価を積み上げていくことも大切ですが、今後予定されている複合施設プロジェクトとしてどうかという視点も大切だと思います。単年度型の事業評価をプロジェクト型の思考としてどのように補完していくか、継続性をどのように勘考していくかが大切だと思います。

(大谷会長) 委員の皆様で本日の資料を踏まえて、見直しする際に前提となる情報が必要だと感じております。例えば利用登録率が定着しない場合、「どの世代が更新されないのか」を分析し、それを踏まえて「この世代が更新しないことが分かった。その方々に更新していただけるようにするために、今回このような活動を行いました」のように、利用登録率が当初の計画通りに達成できなくても、今後継続することで目標を達成することができるのではないかという形にしていきたい。ですので、どの部分に不調の原因があるのかデータが必要だと思いました。ウェブのアクセス数もどうなのだろうかというところで、例えば、アクセスログでどのコンテンツが見られているのかまたは、見られていないのかを分析する必要があるのではないのでしょうか。全体の達成率は低くても、「ここの内容を図書館は努力している」というのがあれば、前向きな評価をつけることができると考えております。委員の皆様の

中で「ここはなぜこの数値になっているのか」「ここを知りたい」というご意見はございますか。

(渡辺(裕)委員) 私が昔利用していた図書館は図書館の貸出券の更新が無く、何年も同じ貸出券を利用していました。相模原市は何年に1度更新する必要があるのでしょうか。公民館図書室を利用することが多く、図書館を利用することが少ないのですが、細部の情報を伝わってこないのもう少しアナウンスしたほうが良いのではないのでしょうか。

公民館図書室は係の方が1名しかおらず、貸出券を作るときにあまり詳しい説明は受けていないと記憶しています。サービス面の質を向上させることで利用者から図書館の情報を知るきっかけになると思います。

(事務局) 貸出券の更新について、有効期限は4年です。ポスター掲示等でご案内します。掲示されていることをご存じない方もいますので、総合カウンターに更新が必要な貸出券を持って来られた場合、端末で「貸出券の更新が必要」とポップアップが出ますので、お声がけしています。

(渡辺(裕)委員) ありがとうございます。

(事務局) 補足です。有効期限が4年間とは、「貸出券を使用しない期間が4年間あると更新しなければ本を借りることができない」という意味で、継続的に貸出券を使って本を借りている方は、同じ貸出券を使い続けることができます。

(渡辺(裕)委員) 更新手続に何か身分証明書は必要でしょうか。

(事務局) 住所、氏名等に変更があった場合は、身分証明書のご提示をお願いします。

(渡部委員) 資料1に上位計画である教育振興計画があるので、目標値の修正は困難とご説明がありましたが、上位計画もまた更新する時期が来ると思います。その時に教育振興計画の目標値を修正する必要があるのではと思いますので、それも検討する必要があると思います。例えば、市民登録率の目標値が25.0%について、どのような根拠でこの数値が算出されているのでしょうか。人口から割り出しているのか、人口及び職員数なのか。一般向け講座・講演会等の参加者数についても2,600人とありますが、目標値はどのような根拠で算出されているのでしょうか。今までずっと続いてきた数式があるのか、図書館一般にある基準値があるのでしょうか。

(事務局) 成果指標の目標値は計画策定にあたり、現状値として平成30年度又は令和元年度の実績を調査しています。例えば、市民登録率は平成30

年度時点で 22.7%という数値が出ており、計画の推進によってこれが向上すると考え、目標値として 25.0%と設定しています。それ以外の指標に関しても、基本的には計画の推進によって現状値から向上を図るという考え方で、現状値よりも高い数値を設定したという経緯があります。

(渡部委員) 分かりました。

(大谷委員) 他の公共図書館の市民登録率はもう少し高い印象があります。ただし、人口が多い地域の場合、市民登録率を上げることは難しいと思います。人口が少ない地域では周りに他の施設が無いと市民登録率が 100.0%を上回るケースがあります。政令指定都市の場合、人口の分母が大きいので景気のいい数字が出ないかと思います。ですが、この数値が高いかどうかと言われれば、図書館業界的な印象として低いかなというところではあります。

(渡部委員) ホームページアクセス数の実績値もとても低いですが、目標値である 30,000 件というのも全国的にはそれくらいのものを求めているのでしょうか。

(大谷会長) 他の図書館でもホームページアクセス数の類の数値は達成できていないことが多い印象です。つまり、図書館のホームページが市民の皆様人気になってアクセス数が伸びるのか等課題があり、相当広報戦略が充実していてもアクセス数が伸びるとは正直言い難いと思います。昔は、アクセス数はとにかくアクセスカウンターを増やせばよいという文化もウェブ上ではあったかと思いますが、それも少し違っていているかなと思います。先ほども申しあげたとおり「どのコンテンツが見られているのか」、「見てもらいたいコンテンツが見られていない」のであれば、それは改善しなければならないと思います。これに関しての通り相場的な、例えば 1 人当たりの年間貸出冊数は図書館業界内で共通認識があると思いますが、ウェブアクセス数等はそれが無いので、それぞれの地域で考えなければなりません、達成状況はあまり良くない状況だと思います。

(渥美委員) 今、急遽調べたところ武蔵野市立の図書館はアクセス数が公表されていて、約 500 万件です。アクセス数が多い図書館もあるので参考にしてみる価値はあると思いますし、大谷委員がおっしゃったように、ホームページのどの部分がアクセスされているのか、図書館の事業の優先順位と合致しているか検証することが大切だと思います。

(大谷会長) 今は年間の件数でおっしゃられたので、500 万件を 365 で割るとおよそ 13,000 件ですね。武蔵野市の武蔵野プレイスは大変有名な図書館で

すが、そこでも一日 13,000 ということは、目標値の 30,000 件という数値が実現可能なのだろうかという気がします。

(事務局) 補足として本市の図書館ホームページの中で個別のページがどのぐらい見られているのかというお話もありましたので、参考にお伝えさせていただきます。資料検索には簡易検索と通常検索がありますが、通常検索の検索条件入力ページは令和元年度は 1 日平均で約 6,177 件でしたが、令和 6 年度は約 120,000 件とトップページとアクセス数が逆転している状況です。他のページのアクセス数の状況は調査できると思いますので、今後の評価の変更の中で情報を提供できると良いと考えております。

(大谷委員) 細かい部分は資料をいただいてから議論をしなければ机上の空論になってしまいます。だからこそあらかじめ気になったことは、この場でご意見いただいた方が良いと思います。

(渡辺(晃)委員) ホームページのアクセス数の目標値はどのように算出されたのでしょうか。市民登録率＝顧客という概念を外してもよいのではと感じました。年齢層によりますがスマートフォンでは無料で本が読めるので、図書館の在り方が問われていると思います。資料 1 の重点取組・重点評価の試案において「新たな利用者を取り組むきっかけとなる事業を積極的に展開する」、「事業実施の機会に貸出券の登録を促す声掛けを定例化する」とあるが、これは図書館職員の努力目標のようなもので、それも少し違うように感じました。地域の方が図書館に求める在り方を考えて、図書館にアクセスしたいと思ってもらえるような図書館づくりになると良いと思いました。

(大谷会長) 理想は量的に確認でき、「ここを頑張っている」というのが分かることです。それが難しいとしても、全体の状況はともかく、この部分は改善傾向にあるのではないかなどが確認できると良いです。この計画自体が新型コロナウイルス感染症流行前に作られましたが、感染症流行後、世間が想定していなかった方向に移行していることが大きな要因だと思います。

しかし、新しい社会の中で図書館として何をやるべきなのか、次のための目標というのが大切だと思います。渥美委員作成の指標も正式に指標の候補として検討してよいのではないかと思います。

(佐藤(純)委員) 資料 1 の 3 ページにある「一般向け講座・講演会等の参加者数」の数値を初めて見ました。生涯学習施設である図書館が本の貸出・返却にとどまらず地域の方向けにさまざまな講演会等、生涯学習の機会を提供することは良いと思いますが、すみ分けの部分で、本市には全国

的にも珍しく、32箇所公民館があります。実績値が1,617人で目標値である2,600人に達していないので駄目なのかというと、そういうわけではないと思います。例えば近隣の大野北公民館で行っているイベントに大勢の方が参加しています。他にも市内図書館の近隣の公民館のイベント参加者が大勢います。それなのに図書館で生涯学習の学びの場の提供について、市民の方がどれだけ参加したかの数値を指標にあげる理由が少し分かりませんでした。例えば子どもの読み聞かせや、それに関する講師を呼び講演会や学習会を開き、そこにどのくらい市民が参加したかを測るのであれば分かります。生涯学習の機会を提供している公民館が地域ごとにあるので、それと類似しているのではないのでしょうか。目標設定すること自体は良いことですが、市内の公民館が実績を毎年出しているのも、それでよいのではと感じました。

(大谷会長) 実績の中にある数値は子どもへの読み聞かせが入っているのでしょうか。

(事務局) 一般向けですので、子どもへの読み聞かせは含まれていません。ですが、大人の読み聞かせボランティア養成講座や大人のためのおはなし会はカウントしています。

(大谷会長) どのようにすみ分けるのかという問題はあると思いますが、図書館は資料にかかわるイベントを行うという方針でやっているかと思います。コロナウイルス感染症が流行した時期は密を避けなければならない、図書館は積極的なイベント周知や開催が難しい状況が何年か続きました。その後、イベント等を再開したものの、以前ほど参加者数が多いという状況かと思います。有限の税金を使って、図書館と公民館でイベントの参加者数の取り合いをしているのではなく、図書館の資料を活用して読書習慣の確保のために行っているということかと思います。

(金子委員) 評価方法の改善はとても良いことだと思いました。内容的にとっても努力されていても数値が達成していないことがあると、評価を付けるときにとても歯痒い思いをしていました。このような形に変更していただくと心から評価ができますので助かります。

(小山副会長) 皆様からのご意見を伺い、今回の事務局からのご提案についておおむね賛同されているかと思いますが、この方向で次回提案していただけるとよいと思いました。その際に考えたのは、次に出てくる資料2の2ページ、3ページをご覧くださいと、内部評価の方法と外部評価の方法がそれぞれ記されていて、成果指標の達成項目として60点、施策の取組状況として40点と配分が決まっています。これまでも成果

指標 10 項目のウェイトが大きいという方法でやっているの、我々はそれに従って評価せざるを得ません。今回渥美委員から成果指標の達成項目だけではなく他の取組状況も踏まえた総合的な考え方で評価してはどうかとご提案いただいたかと思います。渡部委員からご提案いただきました今後のことも含めた検討も当然視野に入ってくると思います。その際、成果指標の 10 項目のうち、特に低い 4 項目について、の重点取組や小さな目標を立てて、その成果を私たち委員にお示しいただけると心からそれを踏まえた上で評価ができると考えましたので、まずは次回のご提案をお待ちしたいと思います。

(大谷会長) ありがとうございます。重点的な取組状況は今まで我々基本的には肯定的なので今、副会長がおっしゃった小さな目標のように、少し 定量的な要素があった方が良いのではないかと思います。そうでないと協議会のお手盛り感のように外部評価として市民の信用を失いかねない部分もあると思います。我々としても気持ちよく評価をしたいところがあります。例えば、会社の場合、累積は経営的にはあまり良くない結果だが、単年度の小目標ではプラス、この傾向を続ければ全体の累積の状況も改善が見込めるのではないかと考え、まずは単年度で収益を改善していくと思います。それに近いような形で、まずは図書館として努力できる小さい目標を出していただき、それが全体と比較した時に、それは確かに大事なポイントというのを、この 1 年かけて我々協議会委員が確認してそれを採用してやっていけば良いのではないかと思います。この議題に関して最後一言ございましたらご発言いただけたらと思いますが、もし無いようでしたら、議題 1 に関して、今回はここまでとさせていただいて事務局は量的な小目標、トータルが成果指標につながる、でも、図書館としては手の打ちようがあるというか改善のし甲斐があるというものではないかということを考えながらこの 4 つの指標の原因・分析も進めていただき次回ご提案いただけたらと思います。

(2) 令和 6 年度図書館事業評価について
事務局から資料 2 の説明を行った。

(大谷会長) ありがとうございます。外部評価について補足させていただきます。10 月に各委員へシートの提出依頼が配布されます。評価欄は空欄の状態で、事務局にご意見を提出していただいた後、私の方で総評の文面の取りまとめをさせていただきます。総評については、複数の委員の方が肯定的な評価をされた項目に関しては、基本的に特記事項として

記載させていただく予定です。委員の皆様の感想をもとに全体をまとめて、ポイントとなる項目を2つほど記入し、総合的な評価を ABCD のどれにするかを協議会で決定するという流れになります。総評の部分はあくまで文案ですので細かい修正は会長一任でお願いしますが、修正のご意見ご要望をいただいたものを踏まえて直し、対応していきます。資料編に関しては委員の皆様から頂いたご意見について、事務局の方で文言を整理し直してから対応する形となりますので異なる意見あるいは協議会の外部評価と整合性がなくても協議会委員の皆様が書かれた意見はそのまま紹介する形をとっています。以上、このような形で今年度も事業評価を行います。まだ完成稿ではないので、今の段階で細かく理解することは難しいかと思いますが、ご不明な点や、手順等に関して確認したいことがございましたらこの場でご発言いただけたらと思いますがいかがでしょうか。

(渡辺(裕)委員) 記入シートを予定では10月中旬までに送られてきて、記入するということですが、どのように記入すれば良いのかがまだ理解しきれていないのですが、最終的にはメールでこの資料の確定版が送られてきてその内容を自分なりに咀嚼して理解したうえで「ここが問題なのではないか」、「もう少し知りたい」等なんでもありの意見をこのシートに記入するイメージでよろしいでしょうか。

(大谷会長) 基本的にはその理解で問題ないと思います。ただ単純な事実誤認や、詳細確認は事務局から答えていただいた方が早いと思います。「図書館はこう言っているけど私はやっぱりこう思います」は委員の外部評価として重要な意見ですのでそれはそのまま資料編で載せていただく。それが複数の委員のご指摘だった場合は、総評できちんと特記としてここに関してはこういう声が複数寄せられていますという形で紹介することを想定しています。項目の記述のレベルにも特に決まりはありませんので特定の部分に関する特定のご意見でも良いですし、ある程度まとまった記述に対しての全体的な感想でも構いません。今の説明でよろしいでしょうか。

(渡辺(裕)委員) はい、ありがとうございます。

(大谷会長) 他にいかがでしょうか。先ほど紹介した経緯や議題1も並んでいる数字を見ると「なぜこの部分はこうなのか」と見えてくると思います。いくつかは図書館業界では知られているが、普通の方にとってはあまり馴染みのないような数字もございますので、ご遠慮なく質問いただければ事務局としてきちんと回答してくれると思います。

(佐藤(純)委員) 現在作成中の資料編はいつ頃完成し、送られてくるのですか。

(事務局) 9月の中旬頃を予定しております。なるべく早く作成し、9月中旬頃に郵送させていただきます。そのうえで委員の皆様の締め切りは10月の中旬を予定しております。期日まで時間が短く大変申し訳ございませんがご対応お願いいたします。

(大谷会長) 資料編の最終完成版には、利用者アンケート調査の実施結果と協議会委員の意見が掲載されますが、まず先に利用者アンケートの結果を委員の皆さまに送付させていただき、第3回協議委員会後に協議会委員の意見を掲載し、完成版になるという形になります。

(渡辺(裕)委員) 資料編は郵便で送られてきて、記入シートはメールで送られてくる。その際に期限も明記された形で指示いただけるという理解でよろしいでしょうか。

(事務局) そのとおりです。

(渡辺(裕)委員) ありがとうございます。

(渥美委員) 大谷会長に質問です。外部評価の記載をする際は、今後の予定されている複合施設の関係は、含めないのですか。令和6年度の事業について書くことであって、これからのことは、書かないという理解でよろしいでしょうか。

(大谷会長) 基本的には過去の事業年度に対する評価なので、ある程度の指摘、例えば、6年度の事情はこうだったけど、7年度はこうなってますというの、あるかと思います。それが、6年度に比べて7年度が良くなっている場合、補足の記載が必要だと思います。ただし、基本的にはあくまで、6年度の事業に対して図書館としてはこういう風に評価した、それを踏まえて、さらに、協議会の外部評価としてはこう考えるというものですので、基本は6年度だと思います。そこは、基本ということですので、7年3月31日より後ろの話は一切無視ということでもないと思います。こちらに関しては、確定版は9月中旬に郵送されるということですので、そこでご覧いただき、1か月程度で申し訳ありませんが、ご意見をご提出いただき、それを踏まえて、総評を作るという形をとらせていただきます。ご協力お願い申し上げます。本日の議題の3番のその他ですが、協議会の運営について渥美委員から資料をいただいていますので、ご説明いただいてまずは情報を共有したいと思います。

(3) その他

(渥美委員) 公募で選出されてから約1年たちまして、感想という面が非常に大きいのですが、まことに僭越ながら、図書館協議会とはこうあってほしいといった気持ちから書かせていただきました。9-1~10という

ところで、3、4つに絞らせていただきます。「④事務方の情報に偏りすぎてないか」について、あらゆる委員会にそういう傾向があるが事務局に質問をして、答えを求める形では、偏りすぎていないか。せっかく委員として参加させていただいているので、資料作成も含めて、委員の間でできたらどうか。同じような文脈で今、座席も、外部の委員と事務の委員と別れているが、本日ですと、例えば4つの話題がありましたので、テーマごとにテーブルを分けてそれぞれ話してみるとか、一緒にワークショップ形式でできないかと、思いました。次に、「⑨公募で選ばれているのに市民との接点が無い」について、公募で選ばれているので自分は市民を代表しているという意識が強いのですが、図書館協議会があることを知る市民が少ないと思います。確かにホームページ上に情報が掲載されていますが、ここまで熱心に議論されたことを、市民の方にお伝えしたり、逆に市民の方がどのようなことを図書館に求めているかという場を設けていただくと、私たちの会も活性化するのではないかという意見です。

「⑧議論が閉鎖的」な件について、会議室で議論してるだけだと、どうしても形而上学になってしまいます。実際に図書館を訪問して、歩いて、雰囲気を感じながら、そのあと打合せですとか具体的なお話ができたらいいなと、私の願望を込めて書かせていただきました。

(大谷会長) どのように検討し決定するかは、他の自治体での経験を含めて、なかなか簡単ではないと、正直思ったのもありますし、これは是非というものもありました。今日ここで結論を出すというよりは、他の委員の方も是非ご意見をいただけないでしょうか。第3回の協議会は正直、評価のことで議事が窮屈になると思いますので厳しいと思いますが、4回目の協議会で、今後の協議会のあり方について、他の委員の方の意見も揃えてディスカッションするのはいかがでしょうか。例えば私も、副会長も他の協議会の経験がありますので、運営も自治体によって違う部分と、自治体として簡単ではないと思わされる部分もあります。そういう事も踏まえて、少しざくばらんに意見交換するというか、どうしても議事録をとって残してやりましょうという形式になっていると難しいこともあるので、記録にこだわらずに、自由な意見交換の場として、なにか考えるのも一つの手かと思います。今日ここで渥美委員のご意見を採用という事ではなく、まず他の委員の皆様にもご意見をいただいて本年度の協議会のどこかのタイミングで意見交換ができればと思います。3回目の協議会でできれば良いですが議事が立て込んでいると思いますので、例えば4回目で運営や在り方、市民に

開かれた図書館の運営あるいは意思疎通等をどうしたらいいのかを考
える機会を設けることを私からの提案という形図書館のほうで預かっ
ていただき、委員の皆様にも運営の考え、意見を出していただき集約
をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか、せっかく公募の委員
もいらっしゃるのでもっと市民と関係を深くした形での図書館運営を
じっくり考えたいと思います。よろしいでしょうか。今私が提案した
形で図書館の方にはルールとして問題がなく、かつ、できる限り公式
記録として誰がこう言ったではなく、こうなるとお互いに図書館にと
っても意見を吸い上げやすいとか、あるいは図書館の難しい事情に関
しても我々の方も理解を深めたいと思うので、良い方法をお考えいた
だけたらと思います。この件に関してよろしいでしょうか。

(金子委員) 今のお話なのですが、こういった話をするのにまた別日を設けると
いうことでしょうか。皆様お忙しいので、もし別日なら時間を早める
などではないと厳しいのではないのでしょうか。

(大谷会長) 別日ということではなく、例えば協議会の前後に時間を設ける形で
も良いと思います。

(渡辺(裕)委員) 皆さんの返答がどんな感じか伺いたいのですが、以前図書館協議会
があった時にそれまでは平日の夕方開催が多かったが今後は土日も含
めて検討していくという意見があったと思いますが、結果としては
平日と土日で委員の皆様の都合はどちらの方が良いのか、偏りがあっ
たのか事務局に教えていただきたいです。

(事務局) 前回の協議会でご意見をいただいた、協議会の開催日について、近
年、主に平日夜間の開催でしたがご出席状況がやや低下気味であるこ
とを受け、これまで候補日としてご提示していなかった土日のご都合
をお尋ねしております。結果、土日に関しては「日時によって出席可
能」という方が多数でした。ただ、ご出席が難しい方や、日程によっ
て出席が難しい場合もあるかと思っております。平日に関しても日によ
っては難しい方もいらっしゃるという状況は同じかと思っております
ので、事務局としては今後も会によって平日と土日を含むスケジュール
をあわせて、候補日を提案させていただきできるだけ多くの方に参加
していただける開催日で調整していきたいと考えております。

(渡辺(裕)委員) 色々な可能性が広がるのでありがたいと思います。ありがとうございます。

(事務局) みなさま議題のご協議ありがとうございました。その他皆様から連
絡事項等ありますか。それでは以上で本日の日程を終了させていただきます。
出口に当館の職員が専門雑誌である図書館雑誌に掲載いたし

ました本を2冊置いてあるので閲覧ください。それでは令和7年度第
2回図書館協議会を閉会いたします。

以 上

相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	役 職	氏 名	所 属 等	出欠席
1	会 長	大谷 康晴	青山学院大学教授	出 席
2	副 会 長	小山 憲司	中央大学教授	出 席
3	委 員	佐藤 玲子	相模原市立小学校長会	欠 席
4	〃	渡部 賢一	相模原市立中学校長会	出 席
5	〃	金子 友枝	相模原市社会教育委員会議	出 席
6	〃	佐藤 純	相模原市公民館連絡協議会	出 席
7	〃	渡辺 晃子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会	出 席
8	〃	松浦 浩樹	和泉短期大学教授	欠 席
9	〃	渥美 聡一郎	公募	出 席
10	〃	渡辺 裕子	公募	出 席